

令和4年度 インシデント・アクシデント年間レビュー

	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a	レベル3b	レベル4	レベル5	その他	計
処方	4	3	0	0	0	0	0	0	7
与薬(内服・外用)	7	176	5	1	1	0	0	0	190
与薬(注射・点滴)	5	73	5	6	2	0	0	0	91
調剤	5	4	0	0	0	0	0	0	9
輸血	1	1	0	0	0	0	0	0	2
手術	0	3	0	0	0	0	0	0	3
リハビリテーション	0	1	0	0	0	0	0	0	1
処置	0	5	2	5	0	0	1	0	13
医療用具(機器)の使用・管理	1	4	0	0	1	0	0	1	7
検査	13	34	6	16	1	1	0	0	71
ドレーン・チューブ類の使用・管理	0	41	2	33	2	0	0	0	78
観察	0	2	0	0	0	0	0	0	2
食事と栄養	2	19	0	0	0	0	0	0	21
移送	1	0	0	0	0	0	0	0	1
転倒	1	224	33	43	13	0	0	1	315
転落	0	129	14	9	2	0	0	0	154
環境整備	0	0	0	1	0	0	0	0	1
情報・記録	7	6	0	0	0	0	0	3	16
説明	0	2	0	0	0	0	0	0	2
事務	1	2	0	0	0	0	0	0	3
歯科医療用具(機器)材料の使用・管理	0	0	1	0	0	0	0	0	1
その他	6	20	2	6	3	0	1	2	40
計	54	749	70	120	25	1	2	7	1028

区分	影響レベル	内容
インシデント	レベル0	患者に直接的な影響がなく、実施される前に発見された場合
	レベル1	患者への実害はなかったが、何らかの影響を与えた可能性があるため、観察の強化や心身の配慮が必要になる場合
	レベル2	患者にバイタルサイン等の変化が生じ観察の強化及び、検査の必要が生じた場合(処置や治療は行わなかった)
アクシデント	レベル3a	簡単な処置や治療を要した場合(消毒、シップ、皮の縫合、鎮痛剤の投与など)
	レベル3b	濃厚な処置や治療を要した場合(バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院期間の延長、外来患者の入院、骨折など)
	レベル4	アクシデントによる障害が長期にわたると推測される場合
	レベル5	アクシデントが原因となって死亡した場合(原疾患の自然経過によるものを除く)
その他	盗難、器具破損など患者には影響がない場合	

公表基準

1:レベル 4 またはレベル 5 に該当するアクシデントのうち、院内アクシデント調査委員会にて医療過誤かつ公表の必要があると判断され、臨時医療安全管理対策委員会での判断が承認されたもの。

2:レベルに関わらず、インシデント・アクシデントの事件性、倫理的観点、法律的観点、警鐘の必要性等を複合的に考慮し、公表の必要があると病院が判断したもの。

公表基準	事例の概要及び対応	
2	概要	担当医が過去の健診センターで撮影された胸部単純 X 線写真を確認した際に、肺野に結節影の疑いがあることに気づいた。
	対応	肺野の結節影の指摘は後方視的にみれば難易度は高くないが、当時の胸部単純 X 線写真は背景の進行した線維化が検出に影響を与えたものと思われる、指摘することは容易でなかったことから過失があったとは認められなかった。 今後の対応としては、専門領域の医師による二重読影体制の検討及び AI やアウトソーシング等の導入も視野に入れてさらなる体制強化に取り組む。